

改訂 WHO リスクマネジメントガイダンス（案）における
パンデミックインフルエンザ警戒フェーズの概要

1. 背景

6月10日、WHOが新型インフルエンザの警戒フェーズを改訂したガイダンス案（WHO Pandemic Influenza Risk Management Interim Guidance）を公表した。

2. 主な方針

WHOのリスクアセスメントを考慮しつつ、各国が独自にリスクアセスメントを行い、それに基づいた対策を講じることが求められている。

3. 新しいパンデミック警戒フェーズの基準

新型インフルエンザウイルスの世界的な拡がりに応じて4段階とし、新型インフルエンザウイルスの世界の平均的な流行状況を各国が理解するために使用するものとしている。

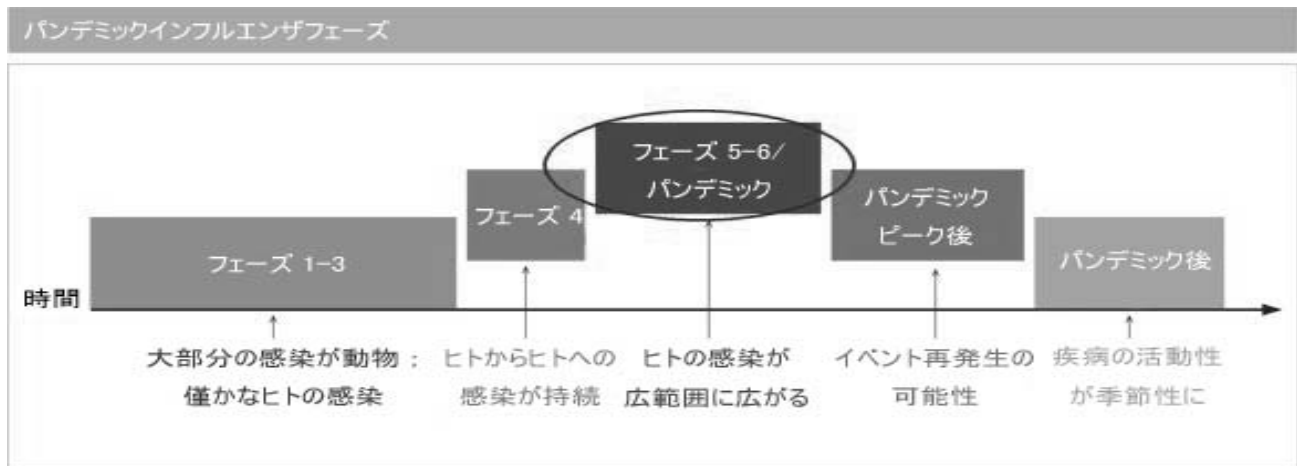
Figure 1. The continuum of pandemic phases^a



- ① **パンデミックとパンデミックの間の時期 (Interpandemic phase) :**
新型インフルエンザによるパンデミックとパンデミックの間の段階。
- ② **警戒期 (Alert phase) :**
新しい亜型のインフルエンザの人への感染が確認された段階。
- ③ **パンデミック期 (Pandemic phase) :**
新しい亜型のインフルエンザの人への感染が世界的に拡大した段階。
- ④ **移行期 (Transition phase) :**
世界的なリスクが下がり、世界的な対応の段階的縮小や国ごとの対策の縮小等が起こりうる段階。
(仮訳：厚生労働省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室)

(参考)

2009年に公表された“Pandemic influenza preparedness and response: a WHO guidance document”における、WHOの新型インフルエンザにおける警戒フェーズ



○フェーズ1:

動物の中で循環しているウイルスがヒトにおいて感染を引き起こしたとの報告がない段階。

○フェーズ2:

家畜または野生の動物の間で循環している動物のインフルエンザウイルスが、ヒトに感染を引き起こしたことが知られ、潜在的なパンデミックの脅威であると考えられる段階。

○フェーズ3:

動物インフルエンザまたはヒト-動物のインフルエンザの再集合ウイルスが、ヒトにおいて散发例を発生させるか小集団集積症例を発生させたが、市中レベルでのアウトブレイクを維持できるだけの十分なヒト-ヒト感染伝播を起こしていない段階。

○フェーズ4:

”市中レベルでのアウトブレイク”を引き起こすことが可能な動物のウイルスのヒト-ヒト感染伝播またはヒトインフルエンザ-動物インフルエンザの再集合体ウイルスのヒト-ヒト感染伝播が確認された段階。

○フェーズ5:

1つのWHO地域で少なくとも2つの国でウイルスのヒト-ヒト感染拡大がある段階。

○フェーズ6: (パンデミックフェーズ):

フェーズ5に定義された基準に加え、WHOの異なる地域において少なくとも他の1つの国で市中レベルでのアウトブレイクがある段階。

○パンデミックピーク後:

ピーク後の期間は、パンデミックの活動が減少していると思われることを表すが、さらに別の流行波が発生するかどうかは不確かであり国々は第二波に備える必要がある段階。

○パンデミック後:

インフルエンザ疾患の流行は季節性インフルエンザで通常見られる水準に戻る段階。

(仮訳: 厚生労働省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室)